

1.2. *a*-形式

a-形式は、以下のようにテンス・アスペクト接辞 *a*-と接尾辞-*a* の組み合わせで表される。

主語接辞—*a*—(目的語接辞)—動詞語根—(派生接辞)—*a*

(3) ように状態変化を表す。

(3) *ímfungulo* *i-a-lub-a*
 9.key 9SM-ANT-get_lost-BS
 「鍵がなくなった」

(3) は-*lub*-「なくなる」を *a*-形式と共起させた例である。*a*-形式を用いたこの文は、「しかし今は見つかっている」という文を後続させると (4a) のように非文となる。これは、*a*-形式によって鍵が見つからない状況が発話時現在まで続いていることが表されているからに他ならない。(4b) のように-*lub*-「なくなる」をテンス・アスペクト接辞 *achi*-と接尾辞-*a* による当日過去を表す形式と共起させれば、矛盾は解決され文が成立する。

(4) a. **ímfungulo* *i-a-lub-a* *pano* *i-a-bon-ik-a* *bukumo*
 9.key 9SM-ANT-get_lost-BS but 9SM-ANT-see-ANTIC-BS now
 b. *ímfungulo* *i-achi-lub-a* *pano* *i-a-bon-ik-a* *bukumo*
 9.key 9SM-HOD-get_lost-BS but 9SM-ANT-see-ANTIC-BS now
 「鍵はなくなったが、今は見つかっている」

a-形式には、Welmers (1972:348) や Dahl (1985:136) の言う近過去と類似した例が見られる。例えば (5a) のように、「いつ (当該の行為を) したのか」という質問に対する答えとして *a*-形式が用いられることがある。(5b) の当日過去の形式と同じように *a*-形式が用いられている。

(5) a. *n-a-lemb-a* *ulúcheelo*
 1sgSM-ANT-write-BS morning
 b. *n-achi-lemb-a* *ulúcheelo*
 1sgSM-HOD-write-BS morning
 {いつ手紙を書いたのかという質問に対して} 「今朝書いた」

Bybee et al. (1994:81-83) は、Anterior を表す形式が出来事が先行して起こった点と参照点に何も関連性のないただの過去を表すようになることがあると指摘している。しかしランバ語においては、-*shaan*-「踊る」のような単純な動作を表す動詞では、「いつ」の質問に対して *a*-形式を用いて答えると (6a) のように非文となる。この場合は (6b) のように当日過去を表す形式を用いなければならない。

(6) a. **n-a-shaan-a* *ulúcheelo*
 1sgSM-ANT-dance-BS morning

- b. **n-achi-shaan-a** ulúcheelo
 1sgSM-HOD-dance-BS morning
 {いつ踊ったのかという質問に対して}「今朝踊った」

ただし以下の (7) のように、汗をかいている状況が発話時現在にあり、踊ったことによってその状況に至っていることを示す場合には、*-shaan-*「踊る」を *a*-形式と共起させても非文ではなくなる。これは、発話時に先行して行った「踊る」という行為が、発話時に汗をかいているという状況と関連性を持つからである。

- (7) **n-a-shaan-a** imiiniti amakumi abili
 1sgSM-ANT-dance-BS 5.minute 6.ten 6.two
 ne tukuta li-lee-pon-a
 and 5.sweat 5SM-PRG-drop-BS
 「20 分間踊ったから、汗をかいているんだよ。」

2. *li*-形式と *a*-形式の相違点

li-形式と *a*-形式はいずれも Anterior を表すが、これらは出来事が先行して起こった点 (先行点) と参照点との距離の長さに違いがある。

- (8) a. ifi ifiseepo fi-a-pi-a ulúcheelo leelo
 8.these 8.fruits 8SM-ANT-ripe-BS morning today
 「これらの食べ物今朝熟した。」
- b. ifi ifiseepo fi-li-pi-ile ukufuma uyu umulungu
 8.these 8.fruits 8SM-BE-ripe-ANTS since 3.this 3.week
 「これらの果物は先週から熟している」
- (9) a. **n-a-katal-a**
 1sgSM-ANT-get_tired-BS
 pakuti **n-achi-pyung-a** makosa leelo ulúcheelo
 because 1sgSM-HOD-sweep-BS hard today morning
- b. ??n-li-katal-ile
 1sgSM-BE-get_tired-ANTS
 pakuti **n-achi-pyung-a** makosa leelo ulúcheelo
 because 1sgSM-HOD-sweep-BS hard today morning
 「私は今朝一生懸命働いたので疲れている」
- (10) **n-li-katal-ile** ukufuma masoshi
 1sgSM-BE-get_tired-ANTS since the_day_before_yesterday
 「私は一昨日から疲れている」

(8a) は *a*-形式の代わりに *li*-形式を用いると非文となり、(8b) は *li*-形式の代わりに *a*-形式を用いると非

文となる。つまり、*a*-形式は先行点と参照点との距離が短い場合にしか用いられないのに対し、*li*-形式は先行点から参照点までの距離が長い場合にしか用いることができない。(9)-*katal*-「疲れる」では、その日の朝の出来事のせいで疲れた状態にあることを表す場合は (9a) のように *a*-形式によって表されるが、(9b) のように *a*-形式の代わりに *li*-形式を用いると許容度が著しく下がる。(10) のように変化点が一昨日であるなど、継続時間がある程度長くなければ *li*-形式は許容されない。

li-形式には、以下のように単なる状態を表す用法もある。

- (11) **n-li-ikal-ile**
 1sgSM-BE-sit-ANTS
 「私は座っている。」

(11) の *ikal*-「座る」では、*li*-形式によって単に座っている状態にあることが表されている。このことから、Bybee et al. (1994:74-76) が述べている「Anterior を表す形式が状態変化の完結を表さず、単なる状態を表すようになる」現象がランバ語の *li*-形式にも起こっていることが考えられる。これは日本語のパーフェクト相「テイル」が「先行の運動性の切り捨て」を起こし「先行の運動性を前提としないもとの状態」を表すようになる現象 (工藤 1995:125) と関連する。つまり、*li*-形式は *a*-形式とは違って必ずしも先行して起こった出来事を含意しないということである。*li*-形式が単なる状態を表すようになった要因は、先行点と参照点との距離が長いことにあると考えられる。これは、参照点との距離が短い *a*-形式にはこの用法がないことから裏付けられる。

3. *li*-形式と σ -形式との関連性

前節では、*li*-形式には単なる状態を表す用法があることを述べたが、ランバ語にはもっぱら状態を表す σ -形式と呼ばれる形式がある。ここでは、*li*-形式と σ -形式の状態を表す用法の比較を行う。

3.1. *li*-形式と σ -形式の使い分け

σ -形式は、テンス・アスペクト接辞 σ -と接尾辞 *-ile* の組み合わせで表される。

主語接辞— σ —(目的語接辞)—動詞語根—(派生接辞)—*ile*

σ -形式は以下のように状態を表す。なお、動作動詞とは共起しない。

- (12) ing'anda yanji i- σ -kashik-ile
 9.house 9.my 9SM-null-be_red-ANTS
 「私の家は赤い。」
- (13) indume yanji i- σ -lwal-ile
 9.brother 9.my 9SM-null-get_sick-ANTF
 「私の弟は病気である。」

(12) は *-kashik*-「赤い」を σ -形式と共起させた例であり、家の「時間の限定を受けない内在的的属性」(益岡 2008:5-6) が表されている。(13) *-lwal*-「病気である」では、弟が病気の状態にあることが表されてい

る。これは「一定の時間的限定のもとで成り立つ非内在的属性」(益岡 2008:5-6) であると解釈できる。
-lwal-「病気である」は、(14) のように *li-*形式とも共起が可能である。

- (14) *ichibusa chanji chi-li-lwal-ile maleelia libili*
 7.friend 7.my 7SM-BE-get_sick-ANTS malaria twice
 「私の友達は2回マラリアにかかっている。」

*li-*形式と *-lwal-*「病気である」を共起させた (14) では、経験の意味が表されている (この用法については後述する)。「マラリアにかかる」という出来事が参照点に先行して2回起こったということであり、先行した出来事が含意されている。一方で \emptyset -形式はこれと同じ意味は表せない。これは、 \emptyset -形式が先行点を含意できないためである。

3.2. \emptyset -形式と *li-*形式との補完性

既述のように、状態は \emptyset -形式だけでなく *li-*形式でも表すことができる。例えば (11) で挙げた *-ikal-*「座る」の場合である。(15) のように *-ishib-*「知る」も *li-*形式と共起して状態を表す。

- (15) *n-li-mu-ishib-ile*
 1sgSM-BE-3sgOM-know-ANTS
 「私は彼／彼女を知っている」

(11) の *-ikal-*「座る」も (15) の *-ishib-*「知る」も、 \emptyset -形式とは共起できない動詞である。これらの動詞のように動作性や意志性を持つ動詞は、 \emptyset -形式と共起できない。*li-*形式が状態を表すのは、 \emptyset -形式と相容れないこれらの動詞と共起した場合である。したがって *li-*形式は、 \emptyset -形式の補完として状態を表していることになる。

\emptyset -形式と共起できない動詞は、*li-*形式と共起することによって以下のような意味を表すこともできる。

- (16) *ba-li-ishib-ile uku-taana ímpila*
 3plSM-BE-know-ANTS INF-play.BS 9.ball
 「彼らはサッカーをすることができる。」
- (17) *umúbyanji a-li-lemb-ile amábuuku atatu*
 1.my_friend 2sgSM-BE-write-ANTS 6.book 6.three
 「私の友達は本を3冊書いている。」

(16) は *-ishib-*「知る」が *li-*形式と共起し「彼ら」がサッカーをする能力があることが表されている。(17) は *-lemb-*「書く」が *li-*形式と共起し、上述の (2) や (14) と同じように経験の意味が表されている。(16) の「彼らはサッカーをすることができる」は、「彼ら」が「サッカーができる」という性質の所有、すなわち「単純所有属性」(益岡 2008:6-8) が表されている。一方 (17) の経験の用法は、「本を書く」という過去の出来事を履歴として所有していることを表しており、これは「履歴属性」(益岡 2008:6-8) と解釈できる。

4. まとめ

以上、ランバ語の Anterior を表す *a*-形式と *li* 形式、状態を表す ϕ -形式について、それぞれ相違点を明らかにしながら、*li*-形式が持つ状態や属性を表す用法について検討した。①Anterior を表す *li*-形式と *a*-形式には、先行点と参照点との距離の長さに違いがある。*li*-形式が先行点と参照点との距離が長い場合に用いられるのに対して、*a*-形式はその距離が短い場合にのみ用いられる。②*li*-形式は必ずしも先行して起こった出来事を含意せず、単なる状態を表すこともある。*li*-形式の状態を表す用法は、先行点と参照点との距離の長さに起因していると考えられる。③ランバ語には状態を表す ϕ -形式がある。 ϕ -形式には動作性や意志性の高いことを表す動詞など、共起できない動詞がある。*li*-形式を用いて状態が表されるのは ϕ -形式と共起できないそれらの動詞の場合であることから、*li*-形式は ϕ -形式と補完的に状態を表していると考えられる。④*li*-形式は、単純所有属性や履歴属性の用法を表す。一方 ϕ -形式には履歴属性の用法はなく、単純所有属性しか表せない。これは、 ϕ -形式が先行点を含意できないからである。対して *li*-形式は先行点を含意することができるため、過去の出来事を履歴として所有する履歴属性を表すことができる。*a*-形式も同様に先行点を含意するが、*li*-形式とは違って経験あるいは履歴属性の用法を持たない。これは、*a*-形式の方が *li*-形式よりも先行点と参照点との距離が短い場合に用いられる形式だからであると考えられる。

記号・略号一覧

SM: Subject Marker

OM: Object Marker

NP: Noun Prefix

LOCP: Locative (Noun) Prefix

INF *uku*:- Infinitive

BE *li*:- Anterior

ANT *a*:- Anterior

HOD *achi*:- Hodiernal Past

PRG *lee*:- Progressive

ANTIC *-ik*:- Anticausative derivational affix

BS *-a*: Basic Suffix

ANTS *-ile*: Anterior Suffix

引用文献

Bybee, Joan & Revere Perkins, William Pagliuca (1994) *The Evolution of Grammar: tense, aspect, and modality in the languages of the world*. Chicago: University of Chicago Press.

Comrie, Bernard (1976) *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dahl, Östen (1985) *Tense and Aspect Systems*. New York: Blackwell.

Nurse, Derek (2007) The Emergence of Tense in Early Bantu. In *Selected Proceedings of the 37th Annual Conference on African Linguistics*. (eds.) Doris L. Payne & Jaime Peña, Somerville, MA: Cascadilla Proceedings Project. 164-179.

Welmers, William, E. (1972) *African language structures*. Berkeley: University of California Press.

工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』東京: ひつじ書房。

益岡隆志 (2008) 「叙述類型論に向けて」益岡隆志 (2008) (編) 『叙述類型論』東京: くろしお出版. pp.3-18.

(u504055g@ecs.osaka-u.ac.jp)